



卒業生

就職先
神奈川県庁

伊藤 雅就さん

日本史学専攻 2020年度卒業
福岡県立宗像高等学校 出身

文学部の幅広い学びとサークル活動の経験を

活かし、使命感を胸に業務を遂行しています

公金を扱う立場として 果たすべき責務を痛感

学生時代に培った経験を活かして社会貢献がしたい・責任のある仕事をしたい、という思いから公務員を志し、神奈川県庁へ入庁しました。私が所属している医療整備・人材課では、県内地域における保健・医療体制の整備を目的に、救急救命センターをはじめとする救急医療分野への支援や、将来の医療現場を担う医療人材の育成・確保へ向けた支援を行っています。その中で私は、予算の執行と年度末の決算、監査業務を担当、80に及ぶ事業がそれぞれ適切に執行されているかをチェック・検証しています。仕事をする上で心がけているのは、「わからない」をそのままにしないことです。私は事業の主担当ではないので、細部まで把握しているわけではありません。そのため、各担当から提出された資料に入念に目を通し、わからない部分は都度確認するようにしています。小さな油断から大きなミスに発展しないよう、公金を扱う立場として細心の注意を払っています。

文学部から 将来をデザインするメリット

大学時代は文学部での幅広い学びで知見を深めることができました。日本史学専攻では歴史を学ぶ上で欠かせない史料読解能力が求められますが、これは根拠法令等を確認しながら進めていく公務員の仕事にも通じていると感じます。そして私にとって一番の思い出は水泳サークルでの活動でした。100名近い組織の代表として、イベントの運営や他大学との交渉を担い、大会では2回優勝することができました。そこでの経験も職場でのコミュニケーションづくりに役立っていると感じています。公務員を将来の選択肢の一つに置くのであれば、キャリアサポートが手厚い中央大学はうってつけです。また、文学部であれば自由な時間も比較的多いので、学問や課外活動など自分が好きなことに没頭しつつ、将来へ向けた準備をしていけるとと思います。私自身、キャリアデザインの授業に参加して、卒業後の進路をイメージすることができたのは、文学部に入ったおかげと感じています。

